

BY（びーわい）スタンプ 第4回 運営会議 要旨（速報版）

日 時：平成 16 年 9 月 30 日（木） 14:00～16:30

場 所：機構 4 階 会議室

参加者：

区分	団体名	代表者	備考
運営委員	天の川を清流にする会	笹本宰正	
	猪名川・神崎川水質研究グループ	中本二郎	
	鶴殿クラブ	江口 聡	
	ひらかた星垂の会	赤城正幸	
	「ええことネット」交野ケナフの会	松山岩脇	欠席
	川の会・名張	川上 聡	
	近木川流域自然大学研究会	橋本夏次	
	子どもと川とまちのフォーラム	小丸和恵	代理
	東近江水環境自治協議会	丹波道明	
	琵琶湖・淀川水系を考える会	伴 一郎	欠席
	水と文化研究会	小坂育子	欠席
	淀川愛好会	澤井健二	代理
おザ-バー	レイクポイント・カヌークラブ	増井敏郎	
事務局 (機構)	青木局長、河野次長、森本部長、遠井和部長 柳田部長、芳谷研究員、山下事務職員		

議題

1. BYスタンプラリーの状況
2. 意見交換等
3. その他

1. BYスタンプラリーの状況

事務局より、1) BYスタンプラリーの状況（資料1）を説明。

2. 意見交換等

事務局より、2) 意見交換等（資料2）を説明し、意見を求めた。

2.1 スタンプラリー実施における課題、改善点

応募者の内、ルール以外の「施設+施設」で応募しているケースが多い。現在は新規の初級台紙を送付して対応しているが、応募者側の立場からすると再度「施設」でスタンプを行う必要が生じる。

この改善策として、施設スタンプの捺印を免除した台紙（施設部分に事務局スタンプを捺印する等）を送付すべきではないか。

移動を伴うイベントでは、スタンプを捺印できないこともある。

「NPO が主催する各種活動に参加してほしい」という趣旨が、参加者にダイレクトに伝えるための工夫（ポスターや台紙、かわら版にコメントを入れる等）をすれば、ルール以外の捺印等が減少するのではないか。

2.2 協賛グループの拡充

滋賀県八日市市にある愛知川河辺林で、里山の保全を目的に活動している市民団体（遊林会）がある。川周辺での保全活動を行っている団体であることから、協賛グループへの参加依頼を検討しても良いのではないかと。

2.3 来年度のBYスタンプラリーについて

来年度の実施時期が4月となると、2月末から3月までのイベントの取り扱いに関する調整が必要となるため、できるだけ今年度と継続して実施できるようにすべき。今年度のルールを基本として、実施予定である各協賛グループへのアンケート調査結果を踏まえ、ルール改正を図って継続実施を図るものとする。

これに当たっては、今年度のクリアー状況を来年度に継続させるかどうか等の議論も必要である。

詳細については、次回運営会議で図るものとする。

2.4 BYQネットワーク交流会（仮称）について

運営会議を定期的に行っているものの、各種情報が十分協賛グループに伝わっていないように感じている。よって、交流会は協賛グループ全員が参加する形式をとると共に、スタンプラリーの趣旨を改めて説明できる場を設けてはどうか。

また、近年水害等の災害が多発していることから、川の危険な場所の認知や心構え等の防災に関する情報提供の場も設けてはどうか。

この交流会は、初めての試みであるので、各協賛グループや一般市民との交流の場を設けることを主目的とし、防災関係は場を改めて実施しても良いのではないかと。

交流会は、BYスタンプラリーだけでなく、広く一般の方の参加を促すイベントであるべきと考える。そうした場合、会のネーミングを交流会とすれば、団体間の交流のみと受け取られる可能性もあるので、例えばネットワーク大会や祭り等にしてもよいのではないかと。

開催費用ができるだけ安価な範囲（大学施設の利用等）で行ってはどうか。

交流会でのねらいを、琵琶湖淀川流域等の大きな枠組みとするより、子供中心の交流会や川の水質勉強会等1つに絞った方が、参加者が集まりやすいのではないかと。

実施日案を3月12日（土）、会場案を摂南大学として、事務局で調整を図る。

詳細については、次回運営会議で図るものとする。

2.5 その他

運営会議メンバーより、今後の活動予定について報告を受けた。

3. その他

次回運営会議：12月9日（木） 14:00～、機構4階会議室

以上